

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞	
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)	

ホームページのご紹介

羽田空港BIG BIRDホームページをリニューアルしました。
<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



Japan Airport Terminal Co., Ltd. 第65期事業報告書

2008年4月1日～2009年3月31日





トップメッセージ

新しい羽田へ向けて

2010年10月の羽田空港再拡張に向けて、事業、財務、組織の3戦略を柱として、一層の社業の発展に努めてまいります。



代表取締役社長

鷹城 勲

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当社第65期の決算(2008年4月1日から2009年3月31日まで)のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社が事業を展開しております航空業界は、燃油価格の高騰により燃油サーチャージが期中高値で推移した中、中国における食の問題や四川大地震に代表される不安定な海外情勢、さらに、米国発の経済危機による世界的な景気後退を背景に、企業収益の悪化や消費者マインドの低下等の影響を受け、国内線・国際線ともに旅客数が減少し、総じて厳しい状況で推移いたしました。また、訪日外国人旅客数も、円高の急進などの影響が重なり大幅に減少いたしました。

このような状況の下、当社グループは、引き続き旅客ターミナルビルにおける利便性、快適性、機能性の向上や、安全対策強化に全力を傾注するとともに、顧客第一主義の徹底を図り、全社を挙げて一層のサービス向上に努めるとともに、企業価値向上を目的として、事業戦略、財務戦略、組織戦略の3戦略を柱として、検討、実施してまいりました。

事業面では、営業の基盤である東京国際空港(羽田)において、2010年の供用開始に向けて第2旅客ターミナルビル増築工事およびP4平面駐車場立体化工事の着工、増大する国際線旅客に対応するための国際線旅客ターミナルビル増改築工事の実施、さらには新規店舗展開、羽田空港限定商品の開発など、積極的に業務の活性化策を推進いたしました。また、新しい空港法により、旅客ターミナルビルの建設および管理運営を行う者は、本年4月1日以降は空港機能施設事業者として国の指定を受けることが義務付けられたため、当該

● 中期経営計画(収支計画等)

収支計画 (単位:億円)	2007年度	2008年度	2009年度	
	実績	実績	※(目標)	※(業績予想)
営業収益	1,394	1,323	1,375	1,245
施設管理運営業	382	389	381	381
物品販売業	855	783	830	717
飲食業	155	149	164	147
営業利益	77	63	102	52
経常利益	78	67	100	52

※目標…2007年5月中期経営計画発表、業績予想…2009年5月発表

指定申請を行い、同年3月に指定を受けました。

財務面では、金融資産の有効活用を目的として退職給付信託を設定するなどの合理化・効率化策を推進いたしました。

また、組織面でも、諸施策を迅速かつ強力に実行するために本部制を導入するとともに、監督と執行の分離および意思決定の迅速化を目指した執行役員制度導入や、より効率的・機動的な組織体制を狙いとした子会社の統合を決定するなど、経営基盤の強化と社業発展に努めてまいりました。

さらに、CSR(企業の社会的責任)の一環として、環境問題に対応するため、空港内ロビーにおけるクールビズ、ウォームビズの実施やグリーン電力の購入に加え、太陽光発電システムの導入を決定するなど、積極的に取り組んでまいりました。

今後とも、国内航空輸送網の拠点である羽田空港における国内線および国際線旅客ターミナルビルを建設、管理運営する企業としての社会的役割を深く認識し、全社を挙げて厳しい経営環境に耐え得る企業体力の形成と経営基盤の強化を図るとともに、公共性と企業性の調和のとれた経営を目指すことにより、一層の社業の充実発展に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月
代表取締役社長 鷹城 勲



特集

— 広くなる。新しい羽田。 —

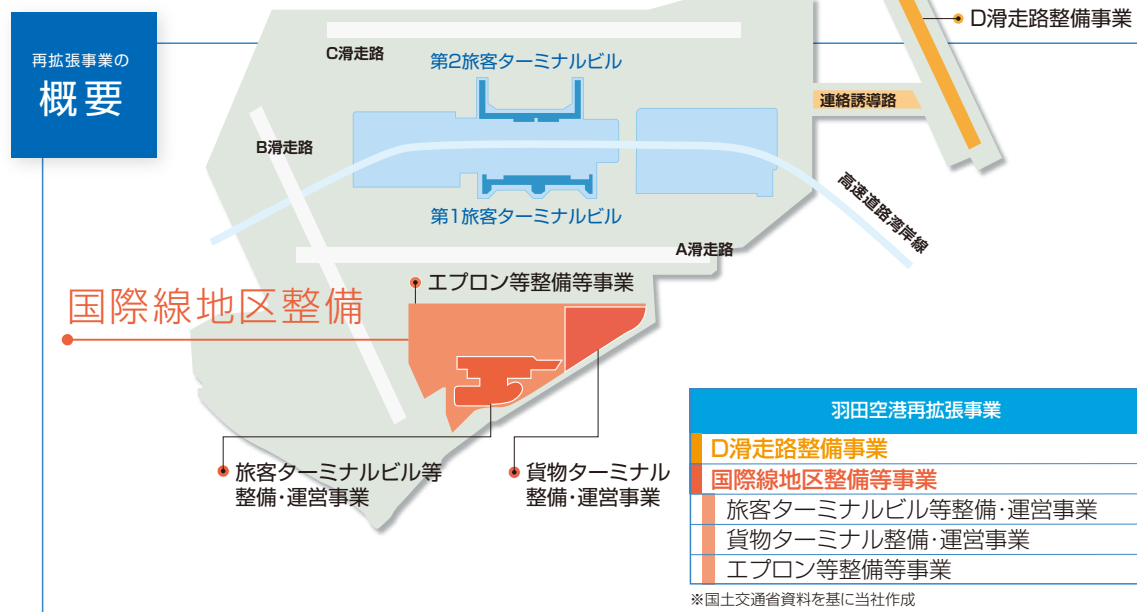
羽田空港再拡張事業

羽田空港は、航空需要の増加から発着能力が既に限界に達しており、首都圏における将来の航空需要の増大に、早急に対応することが求められています。国により進められております再拡張事業では、「D滑走路整備事業」と、旅客ターミナルビル等整備・運営事業、貨物ターミナル整備・運営事業、エプロン等整備等事業に関わる「国際線地区整備等事業」を大きな柱としています。

広くなる。新しい羽田。



滑走路整備



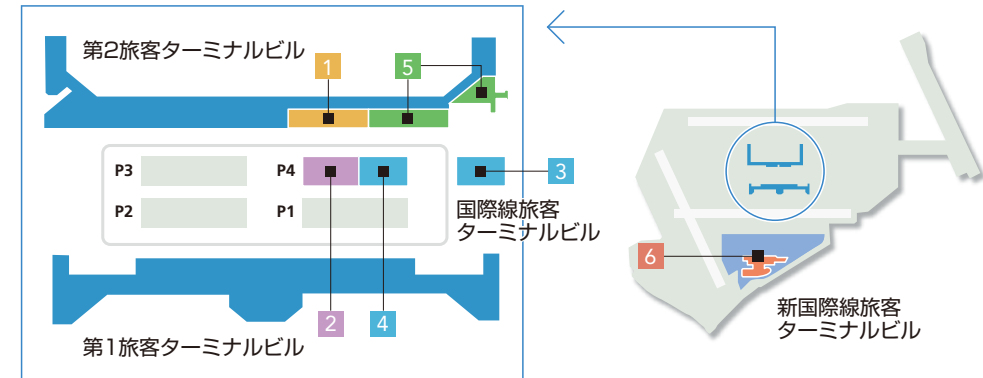
再拡張事業の目的

発着能力の増強(1.3倍)
30.3万回/年 → **40.7万回/年**
31便/時間 → 40便/時間

- 発着容量の制約の解消
- 利用者の利便性の向上
- 将来の国内航空需要対応と国際線定期便の受け入れを目指す

当社の具体的取り組み

再拡張事業が進むと国際線および国内線の増便が可能となり、首都圏の利用者のみならず、羽田空港との路線を持つ各地域の利用者にとっても利便性が向上します。当社はこうした環境変化をビジネスチャンスと捉え、新たな収益基盤の確保に努めます。



1	第2旅客ターミナルビルⅢ次計画 ・本館部分 2008年12月着工 2010年10月供用開始予定	2	P4駐車場立体化 ・P4平面駐車場立体化 (1,600台) 2009年3月着工 2010年10月供用開始予定	3	国際線旅客ターミナルビル 拡張・改修工事(チャーター便対応) ・投資額 21億円 2007年11月供用開始
4	P4駐車場立体化 ・簡易立体駐車場(800台) 投資額 20億円 2007年12月供用開始	5	第2旅客ターミナルビルⅣ次計画(予定) ・3スポット、本館部分 (新国際線旅客ターミナルビル供用後)	6	新国際線旅客ターミナルビル ・建設主:東京国際空港ターミナル株式会社 ・延床面積:約159,000平方メートル 地上5階建て 2010年10月供用開始予定

金浦・北京・大連との業務協力/人事交流

当社では、国際感覚に優れ、企画力・交渉力を備えた社員を育成するため、毎年数名の社員を海外企業へ派遣しております。とりわけ、金浦空港等を運営する韓国空港公社や、中国の北京や大連の空港会社との業務協力や人事交流を積極的に行っております。当社からこれらの海外企業へ、またはこれらの海外企業から当社へ、人を派遣したり、研修を実施することで、両社の友好関係の増進、空港ターミナルのサービスレベル向上を図ります。



第4回 当社-韓国空港公社 年次会議



首都機場集団公司(北京首都空港)との業務協力覚書調印式

特集

広がる。新しい羽田。



羽田空港第2旅客ターミナルビルの増築



羽田空港第2旅客ターミナルビルの本館増築工事を2008年12月に着工しました。D滑走路の整備に伴う国内航空需要増に対応するため、2010年10月の供用開始を目的に工事を推進しております。増築部分においては、出発・到着ロビーの増床を行うとともに、出発保安検査場、到着手荷物ターンテーブル、商業施設を増設するなど、さらなる利便性・快適性・機能性の向上を図ってまいります。



第2旅客ターミナルビル増築完成イメージ

P4駐車場立体化



羽田空港を利用されるお客さまのさらなる利便性の向上および空港内駐車場の混雑緩和を図るため、2007年12月、800台規模の「P4簡易立体駐車場」を供用開始いたしました。

さらに、第2旅客ターミナルビルの増築工事に併せ、P4平面駐車場敷地に約1,600台規模の本格立体駐車場を2009年3月に着工しました(2010年10月供用開始予定)。



P4立体駐車場完成イメージ

新国際線旅客ターミナルビル建設



新国際線旅客ターミナルビル完成イメージ

2003年11月の韓国金浦空港への国際旅客チャーター便就航を皮切りに、2007年9月の中国上海虹橋空港への就航、2008年4月の香港への就航など、羽田空港における国際線の旅客数が増加する中、2010年10月の国際旅客定期便の就航に対応するため、新たに延床面積約159,000平方メートルで地上5階建ての新国際線旅客ターミナルビルが、当社が中核となり航空会社等と出資設立した、「東京国際空港ターミナル株式会社」により建設されています。当社は同社より、運営、維持管理、旅客サービス業務等を受託し、今後も国際線を利用されるお客さまのご要望にきめ細かく対応し、利便性・快適性・機能性の向上を図ってまいります。



建設中の新国際線旅客ターミナルビル(2009年5月現在)



3F 出発ロビー中央 完成イメージ



4F 商業施設「江戸小路」完成イメージ

トピックス 空港をご利用される皆さまへのサービス向上を目指して

羽田空港第1旅客ターミナルビルのリニューアルを推進しておりますが、その一環として同ターミナルビルに新規店舗がオープンしました。

STAR SWEETS (羽田スタースイーツ)

2008年12月1日に「羽田スタースイーツ」がマーケットプレイス2階にオープンしました。「スターになるスイーツ」を全国、世界に広めていこうというコンセプトのもとに、厳選されたブランドが次々登場するスイーツのセレクトショップです。お土産としてはもちろん、大切な人へのプレゼントや、また自分へのご褒美として、きっとご満足いただけます。



LACOSTE (ラコステ)

2009年3月3日に新店舗「LACOSTE」がマーケットプレイス3階にオープンしました。「LACOSTE」はフランスを代表するファッションブランドで、有名なワニのマークのポロシャツの他、スポーティブでエレガントなカジュアルファッションは日本でも大変人気があり、同店では旅を楽しむスタイリッシュなアイテムを多数取りそろえております。



CURRY DINING AVION (カレー ダイニング アビオン)

2008年11月11日、マーケットプレイス地下1階に本格的カレーショップ「CURRY DINING AVION」がオープンしました。昭和40年代に、旧羽田空港ターミナルのレストラン「アビオン」で人気を博したカレーが、当時のレシピを基に、第1旅客ターミナルビルで復活しました。当時の雰囲気味わえる店内で、こだわりの本格カレーをお楽しみください。



丸福珈琲店

2008年12月19日、北ウイング1階到着ロビーに老舗の本格珈琲が味わえる「丸福珈琲店」がオープンしました。創業1934年。食いだおれの街、大阪ミナミで多くの文化人や芸人の方々から愛され続けてきた珈琲店。濃厚なコクと味わいを、こだわりシェフメニューや丸福オリジナルスイーツとともに楽しみください。



羽田空港第2旅客ターミナルビルや成田国際空港にも新規店舗がオープンしました。

Tokyo's Tokyo (トーキョーズ トーキョー)

2009年2月20日、羽田空港第2旅客ターミナルビルマーケットプレイス3階に「Tokyo's Tokyo」がオープンしました。同店は、「東京発の旅」をキーワードに、今注目のクリエイターがプロデュースする雑貨と本のお店です。必要な旅の道具や東京のお土産、書籍などが厳選されて並んでおり、旅の高揚感が演出された店内は、お客さまの旅をちょっと心地よくしてくれるはずですよ。



JAPAN DUTY FREE 本館店 (ジャパンデューティーフリー 本館店)

2008年7月16日に成田国際空港の第2旅客ターミナルビル出国エリア3階に「ジャパンデューティーフリー本館店」がリニューアルオープンしました。同店は第2旅客ターミナルビル内の免税店では、初めて人気の5大化粧品ブランドを同時展開し、時計コーナーも充実させました。スタイリッシュで高級感あふれるお店でお買い物をお楽しみください。



環境に優しいターミナルビルを目指して



当社では、地球規模で広がる地球温暖化対策として以下の取り組みを実施しています。



クールビズ・ウォームビズの実施

当社では、地球温暖化防止への取り組みの一環として、「省エネルギー推進委員会」を設置し、クールビズ、ウォームビズの実施等により、CO₂の削減に寄与しております。

2008年度は対象エリアをさらに広げ、当社グループ事務所に加え、テナント事務所、館内一般ロビーにおいても、省エネキャンペーンの一環として夏季のクールビズ(6月1日～9月30日)、冬季のウォームビズ(12月1日～3月15日)を実施し、合わせて845トンのCO₂削減を達成しました。今後も空調施設のインバーター化、館内照明の一部節電などでさらなる地球温暖化対策に努め、環境に優しい空の旅を提供してまいります。

太陽光発電システム導入

東京都より2010年度以降のCO₂削減義務化条例(改正環境確保条例)が制定され、羽田空港旅客ターミナルビルが極めて公共性の高い施設であることから、CO₂を排出しない自然エネルギーを活用することが社会的使命として求められております。そのような中、当社は自然エネルギーの中で注目度の高い太陽光発電システムを第1旅客ターミナルビル屋上4カ所、第2旅客ターミナルビル屋上2カ所、2010年10月完成予定のP4駐車場屋上1カ所に設置することとしました。

2010年3月から順次供用開始し、年間439トンのCO₂削減を可能とします。



羽田空港第1旅客ターミナルビル 太陽光発電パネル 設置イメージ

グリーン電力の導入について

当社は、羽田空港国内線旅客ターミナルビルで使用する年間電力量約1億3,600万kWhのうち300万kWh分をグリーン電力で賄うこととしました。

この電力量は、第1・第2旅客ターミナルビルに各2台ある地下1階からのシースルーエレベーターと全てのエスカレーターを1年間稼働させる電力に相当します。

※グリーン電力とは、風力やバイオマスなどの自然エネルギーからつくられ、電気をつくる時にCO₂を排出しないとされる環境負荷の小さい電力です。



コラム



羽田空港をご利用の際には、空弁／空スイーツをお楽しみください！！

そらべん 空弁



そら 空スイーツ

鉄道の駅や車内で販売される弁当のことを「駅弁」と呼ぶのに対し、空港ターミナルビル内で販売される弁当類のことを「空弁」と呼んでいます。最近では空港を飛び出して一般の雑誌で特集されたり、デパートやコンビニエンスストアで空弁フェアが開かれたりと、何かと注目を集めています。

羽田空港の「空弁工房(そらべんこうぼう)」に並ぶのは、老舗料亭、仕出し専門店、焼き鳥店、すし店の空弁など多種多様な顔ぶれで、羽田空港でしか買えない空弁や季節限定商品も販売されます。

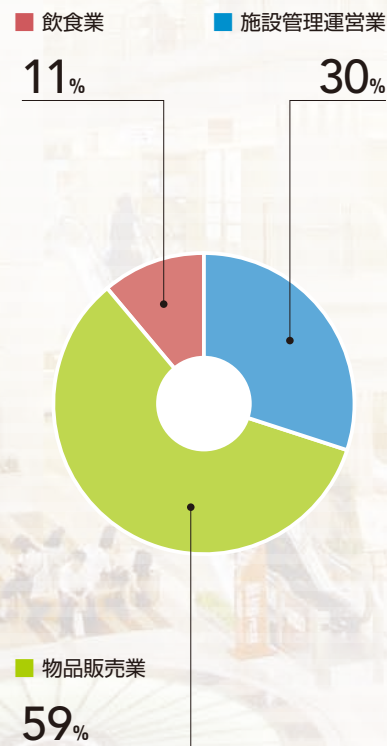
一方、機内や旅行先でも気軽に食べられるスイーツとして登場したのが「空スイーツ」です。お客さまの声を商品開発に取り入れたこだわりの味と、東京らしいパッケージは、お土産にも最適です。

羽田空港をご利用の際には、ぜひとも「空弁」「空スイーツ」をご堪能ください。

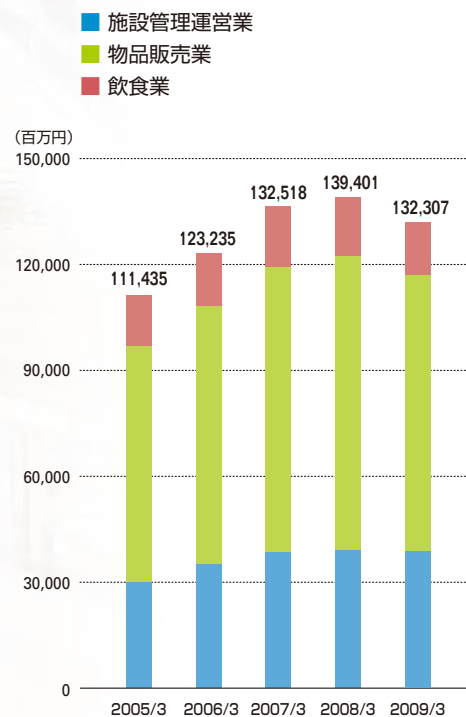
事業別概況



営業収益比率



営業収益の推移



施設管理運営業

家賃収入および施設利用料収入は、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおいては、航空会社用事務室スペースの賃貸減や国内線航空旅客数の減少等により微減となりましたが、国際線旅客ターミナルビルにおいて、一昨年9月の羽田-上海(虹橋)間、さらに昨年4月の羽田-香港間国際旅客チャーター便就航に伴い、国際線航空旅客数が増加したこと等により、前年を上回りました。また、社有地開発の新規外部賃貸物件が通年稼働し

たことも売上増加に寄与いたしました。

その他の収入は、一昨年12月のP4簡易立体駐車場の供用開始や、有料待合室「エアポートラウンジ」の利用件数の増加等により、堅調に推移いたしました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は 410億7千5百万円(前期比1.5%増)、営業利益は 25億6百万円(前期比61.6%増)となりました。

物品販売業

国内線売店(羽田空港)につきましては、厳選されたスイーツのセレクトショップ「羽田スタースイーツ」、注目のクリエイターがプロデュースする雑貨と本のお店「Tokyo's Tokyo(トキョーズ トーキョー)」等の話題性と魅力ある新規店舗を展開するとともに、「空(そら)スイーツ」等の新商品や季節感のある商品の積極的な催事販売を行い、営業基盤の拡充と収益力の向上に努めました。しかしながら、下期に入り旅客数の減少傾向が強まったことや、成人識別たばこ自動販売機導入に伴い自動販売機売上が減少したこと、一部店舗におきまして運営形態を変更したこと等により、売上は前年を若干下回りました。

舗のリニューアル、円高に対応した一部商品の価格見直し等の積極的な営業展開に努めましたが、国際線旅客数の大幅な減少、消費者マインドの冷え込み、急速な円高の進行等により、売上は前年を下回りました。

その他の売上につきましては、成田国際空港および関西国際空港における卸売が旅客数の大幅な減少等の影響を受け、前年を下回りました。

その結果、物品販売業の営業収益は 791億2千4百万円(前期比8.3%減)、営業利益は 73億5千6百万円(前期比18.8%減)となりました。

国際線売店につきましては、訪日外国人旅客への販売促進、店

飲食業

飲食店舗売上ににつきましては、羽田空港国内線・国際線旅客ターミナルビルにおける新規店舗展開の寄与により、売上は前年を上回りました。

が大幅に減少し、売上は前年を下回りました。

機内食売上ににつきましては、国際線航空旅客数の減少等厳しい事業環境を背景として、顧客航空会社が進めるコスト削減や機材の小型化、就航便数の減少等の影響を受け、機内食提供数

その結果、飲食業の営業収益は 170億4千2百万円(前期比2.5%減)、営業利益は、水道光熱費の削減や外注品の内製化、勤務時間の柔軟な対応等のコスト管理強化に努めましたが、大型機A380対応の機内食搭載作業車両導入に伴う減価償却費等の増加により 3千6百万円(前期比91.1%減)となりました。

※本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

連結財務諸表



連結貸借対照表(要旨)

(単位 百万円)

	当期	前期		当期	前期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在		2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	30,274	30,684	流動負債	25,665	28,188
現金及び預金	15,910	16,149	買掛金	4,274	4,897
売掛金	5,456	6,353	短期借入金	9,324	9,929
有価証券	2,549	1,998	未払法人税等	2,009	2,509
たな卸資産	3,965	3,920	賞与引当金	868	890
繰延税金資産	1,093	1,172	役員賞与引当金	170	196
その他	1,341	1,148	その他	9,018	9,765
貸倒引当金	△ 42	△ 57	固定負債	38,141	39,238
固定資産	156,090	158,441	長期借入金	26,290	24,544
有形固定資産	134,764	134,994	退職給付引当金	4,897	8,422
建物及び構築物	110,468	117,969	役員退職慰労引当金	1,383	1,210
機械装置及び運搬具	1,879	2,168	その他	5,570	5,060
土地	10,578	8,612	負債合計	63,807	67,426
建設仮勘定	6,972	524	(純資産の部)		
その他	4,865	5,720	株主資本	119,330	116,805
無形固定資産	616	697	資本金	17,489	17,489
投資その他の資産	20,709	22,749	資本剰余金	21,310	21,309
投資有価証券	8,847	13,823	利益剰余金	80,611	78,086
繰延税金資産	8,406	7,035	自己株式	△ 80	△ 79
その他	3,454	1,890	評価・換算差額等	950	1,800
資産合計	186,364	189,126	その他有価証券評価差額金	974	1,835
			繰延ヘッジ損益	△ 24	△ 34
			少数株主持分	2,276	3,093
			純資産合計	122,557	121,699
			負債純資産合計	186,364	189,126

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

1 有形固定資産 / 建設仮勘定は、羽田空港第2旅客ターミナルビル増築工事等により、64億円増加しましたが、減価償却費の遡減等により建物及び構築物は75億円の減少となりました。これらの結果、当期末の有形固定資産は、前期末比2億円減の1,347億円となりました。

2 負債合計 / 退職給付信託の設定により退職給付引当金は35億円の減少となり、当期末の負債合計は、前期末比36億円減の638億円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位 百万円)

	当期	前期
	自2008年4月1日 至2009年3月31日	自2007年4月1日 至2008年3月31日
営業収益	132,307	139,401
売上原価	65,113	70,335
営業総利益	67,193	69,065
販売費及び一般管理費	60,795	61,343
営業利益	6,397	7,721
営業外収益	1,372	1,377
営業外費用	1,005	1,263
経常利益	6,764	7,836
特別利益	705	161
特別損失	321	8
税金等調整前当期純利益	7,148	7,988
法人税、住民税及び事業税	3,922	4,270
法人税等調整額	△ 806	△ 371
少数株主利益	49	—
少数株主損失	—	61
当期純利益	3,981	4,151

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位 百万円)

	当期	前期
	自2008年4月1日 至2009年3月31日	自2007年4月1日 至2008年3月31日
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	17,164	18,713
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,208	△ 12,945
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 352	△ 8,575
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 0
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 395	△ 2,808
VI 現金及び現金同等物の期首残高	16,088	18,796
VII 新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	100
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	15,693	16,088

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

3 営業収益 / 世界的な景気後退による航空旅客数の減少と、消費者マインドの低下や円高の影響を受け、売店売上などを中心とした商品売上高の大幅な減少により、当期の営業収益は、前期比5.1%減となりました。

4 営業利益 / 販売費及び一般管理費は、前期比0.9%減と適切なコスト管理を図りましたが、営業収益のマイナスをカバーできず、当期の営業利益は、前期比17.1%減となりました。

連結株主資本等変動計算書 当期(自2008年4月1日 至2009年3月31日)

(単位 百万円)

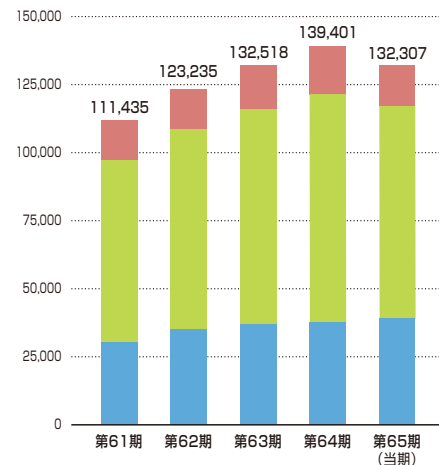
	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
2008年3月31日 残高	17,489	21,309	78,086	△ 79	116,805	1,835	△ 34	1,800	3,093	121,699
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,456		△ 1,456					△ 1,456
当期純利益			3,981		3,981					3,981
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△ 861	10	△ 850	△ 816	△ 1,666
連結会計年度中の変動額合計	—	0	2,525	△ 0	2,524	△ 861	10	△ 850	△ 816	858
2009年3月31日 残高	17,489	21,310	80,611	△ 80	119,330	974	△ 24	950	2,276	122,557

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

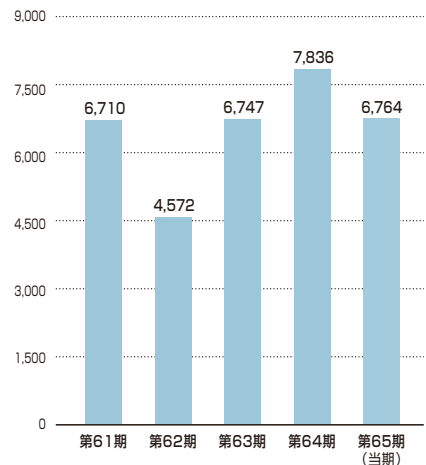
連結財務ハイライト

営業収益 (単位: 百万円)

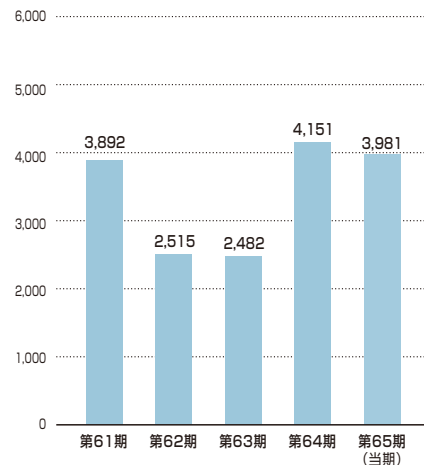
■ 施設管理運営業 ■ 物品販売業 ■ 飲食業



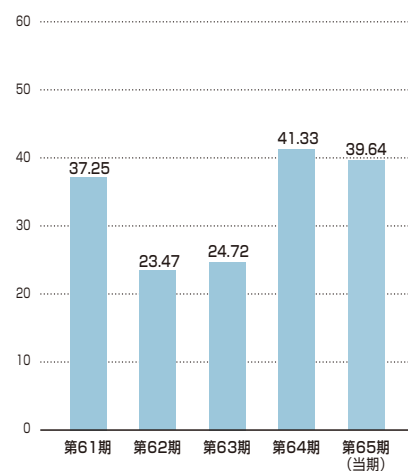
経常利益 (単位: 百万円)



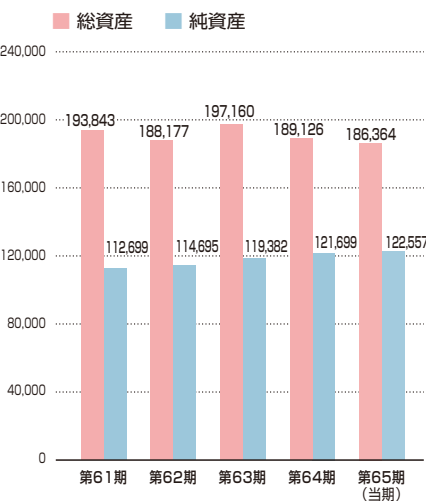
当期純利益 (単位: 百万円)



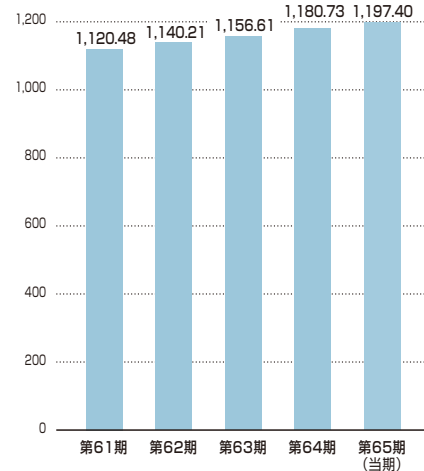
1株当たり当期純利益 (単位: 円)



総資産/純資産 (単位: 百万円)



1株当たり純資産 (単位: 円)



株式情報 (2009年3月31日現在)



株式の状況

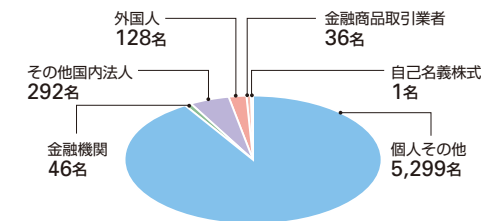
発行可能株式総数	288,000,000株
発行済株式の総数	100,540,000株
株主数	5,802名

大株主

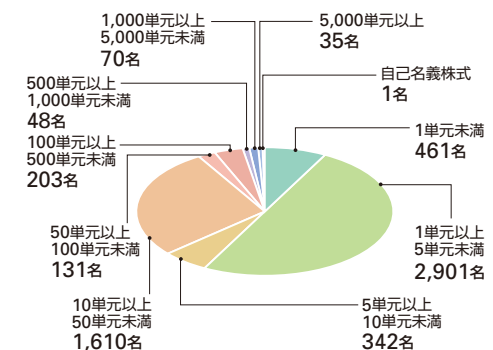
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
インターナショナル インフラストラクチャー ホールディングス リミテッド エムエー ジャパン エクイティーズ	20,000	19.89
株式会社日本航空インターナショナル	4,398	4.37
全日本空輸株式会社	4,398	4.37
株式会社みずほコーポレート銀行	3,835	3.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	3.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	3.38
三菱地所株式会社	3,111	3.09
大成建設株式会社	2,731	2.71
日本通運株式会社	2,337	2.32
シージーエムエルアイピービー トウキョウ クライアント セキュリティーズ アカウント	2,295	2.28

(注) マコーリー バンク リミテッド クライアント カस्टディ アカウントは、登録名変更により、インターナショナル インフラストラクチャー ホールディングス リミテッド エムエー ジャパン エクイティーズとなりました。

所有者別株主数分布



所有数別株主数分布 (単元株式数=100株)



株主ご優待券がご利用いただけます

羽田空港旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗・エアポートルounge等(※)にて1枚1,000円の金券としてご利用いただけます。

ご所有株式数	配布内容
100株以上 1,000株未満	ご優待券1枚 (1,000円)
1,000株以上 10,000株未満	ご優待券2枚 (2,000円)
10,000株以上	ご優待券3枚 (3,000円)

※ご利用可能店舗は、羽田空港191店舗、成田国際空港24店舗、関西国際空港1店舗等です。



会社概要

(2009年6月26日現在)

■ 会社概要

- 商号 日本空港ビルデング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.
- 設立 1953年7月20日
- 資本金 174億8,920万円(東証一部上場)
- 事業内容 (1) 東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルの建設、管理運営
① 航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理
② 航空運送事業者および空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸
- (2) 物品販売業務
① 東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
② 成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
③ 関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
- (3) その他のサービス業務
① 東京国際空港(羽田)利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
② 成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

■ 本社および営業所等

- 本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(東京国際空港内)
- 東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号
日本ビル10階
- 成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地
(成田国際空港内)
- 大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
(関西国際空港内)
- 中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

■ 役員

- | | |
|--------------|--------|
| 取締役会長 | 門脇 邦彦 |
| 代表取締役社長執行役員 | 鷹城 勲 |
| 代表取締役副社長執行役員 | 土井 勝二 |
| 代表取締役副社長執行役員 | 櫻井 正志 |
| 専務取締役執行役員 | 山本 兵一 |
| 専務取締役執行役員 | 石黒 正吉 |
| 常務取締役執行役員 | 安藤 隆 |
| 常務取締役執行役員 | 横田 信秋 |
| 常務取締役執行役員 | 高橋 篤郎 |
| 常務取締役執行役員 | 中岡 進 |
| 取締役 | 高木 丈太郎 |
| 取締役 | 小谷 昌 |
| 取締役 | 戸矢 博道 |
| 取締役 | 竹中 哲也 |
| 取締役 | 霜田 明彦 |
| 常勤監査役 | 眞貝 和夫 |
| 常勤監査役 | 森田 一夫 |
| 監査役 | 赤井 文彌 |
| 監査役 | 樋口 公啓 |
| 監査役 | 大鷲 雅一 |
| 常務執行役員 | 田中 一禎 |
| 常務執行役員 | 中村 元一 |
| 執行役員 | 岩松 孝昭 |
| 執行役員 | 岡本 保弘 |
| 執行役員 | 森岡 洋一 |
| 執行役員 | 古賀 宰 |
| 執行役員 | 宮内 公 |
| 執行役員 | 後藤 久 |
| 執行役員 | 松本 真澄 |
| 執行役員 | 河合 誠 |

理念／グループ会社紹介



1953年、当社は東京国際空港(羽田)の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客様にご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

- 公共性と企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- お客様本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

(2009年7月1日現在)

